

第6回阿賀野市観光戦略プラン推進・評価委員会会議録

- I. 日 時 平成26年3月20日(木) 午後2時00分～3時10分
- II. 会 場 阿賀野市役所 第1多目的ホール
- III. 参 集 者 審議会委員：大堀委員 齊藤委員 山本委員 鈴木委員
百都委員 石塚委員
事 務 局：五十嵐課長補佐 片桐観光政策監 田中係長
齊藤主任 小林主任 以上11名

IV. 内 容

1. 開 会

(事務局) 定刻となりましたので、第6回阿賀野市観光戦略プラン推進・評価委員会を開催いたします。本日は委員長が不在となりますので、はじめに鈴木副委員長よりあいさつをお願いいたします。

2 委員長あいさつ

本日は委員長の代理を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(事務局) 議題に入る前に、本日配布した「ラムサール条約登録湿地 瓢湖」という資料について説明させていただきます。先回の会議の際に委員さんからいただいた、瓢湖がラムサール条約に登録された後でどのような変化、メリットなどがあったかというご質問についてまとめてあります。全体として見れば、世界の瓢湖というブランドが知れ渡ったこと、それとこの登録により、環境省からの補助が期待できるという2点が挙げられます。デメリットについてはないと考えております。さまざまな縛りがありますが、ラムサールの規制以上に、国の天然記念物という縛りが既にあることから、ラムサール条約に登録したことのデメリットはないと考えています。

3 議 題

(1) 阿賀野市観光戦略プランの見直しについて...事務局から一括説明

質疑応答

(委員)「NHKラジオ深夜便」という番組で、ツバキ華園の大岡さんの対談があった。ツバキの苗をたくさん持っていて、保田の立川ブラインドの土地に植えたらどうかという思いがある。ツツジ、アジサイなどは植えているところがあるが、ツバキはあまり植えているところがないようであるし、種類も4, 000ほどある。これをボランティアを使って植えるなどするといいいのではないか。ツバキからせっけんや化粧水を作ったりもしているところもあるので、宣伝をしていったらどうか。ツバキの時期は長いので有利であると思う。その時々で違う種類を楽しむことができる。集客も期待できるのではないか。長期計画でやったらいいと思う。

(事務局) プランの基本理念と方向性について「観光資源、観光振興のキーワード共に賛成です。この理念をいかに人に侵透させていくかが重要」また基本戦略、基本施策について「基本戦略の柱に人づくりを置く」という提案をいただいたが、このことについて、補足なども含めて、詳しくお聞かせいただきたいと思う。

(委員) 今のプランについて、戦略プランの理念、おもてなしの考え方、資源の特定などはいいと思うし、基本的な方向性についても問題は、ないと思う。これを絵に描いた餅にしないためにはどういうふうに行うかが重要。これまでの行政の仕事というのは、行政がお金をもらい、市民に対してやってあげるという形であった。これからは、役所の仕事はコーディネーターであり、市民に自らやっていただくという意識に転換をさせることが重要と考える。そうはいつでも、一定の考え方や方向性を市が提示して、そこに市民をいかに巻き込んでいくかということになると思う。巻き込み方について、今までは、観光協会、商工会など行政とパートナーシップが可能な組織と組んでいたが、それだと従来型の仕掛けになりかねない。形としてはそのまま、実動部隊が必要となってくる。やる気のある、女性、若者、外部の人の中で、実際に動いてくれる人をピックアップして、きちんと位置付けること。お金とは別の誘引策が必要であると思う。B級グルメというのは二流のイメージがあるが、本当はそうでなく、地域のブランド戦略である。富士宮であればその地域を広めていくという目的があって企画をしている。単品の企画に100人、200人来たからといっても意味がないと思う。問題は、それを組織の重要部隊としてどう作り出していくかということ。イメージとして、企画、行動、マネジメントもできる人はAランク、行動するときにリーダーとして引っ張っていける人がBランク、毎回参加す

る人はCランク、参加はしないが、意見を寄せてくれる人はDランク、個人名簿のリストを作りだしていく。それぞれのセクションごとのボランティアメンバーを登録し、その窓口を機能させること。例えば種子島の例を挙げると、その観光協会を窓口として鉄砲を含めたツアーを企画したい場合に、半日コース、二日コースなどいくつか組み立てていく。そこに観光業者も入るが、市民ボランティアがきちんと組織化されていて、安いのが500円払っている。集合から解散まで面倒をみるというルールになっていて、観光そのものから金をもらうのでない。5人から10人程度なので、ボランティア1人で十分である。学校の先生や市の職員を退職した人などで、知識もあり話もうまいという人が多い。また、イベントの運営委員もそういう人たちが組み立てる。そうすると、市としてコーディネーターはするが、実際出店する人から会費をとるとか、その時に参加者のデータをどこかでとれるようにする。例えば、携帯電話でアップするページを作ることで、インターネットで情報がもらえるので、個人情報の属性を作っていく。人数が増えて市自体が動かしにくくなったら、そういうNPOに委託して作っていく。公費を使うよりも、イベントで、受益者に負担させるようにしていくと、かなりいけるのではないかと思う。これまでの話を聞いていて思ったが、結構おもしろい人が阿賀野市にいると思う。阿賀野市の著名人を観光のスターとして登録しておいて、何らかのシンポジウムなどで売り出していく。報酬はあまり払わずに、売り出すことによって有名になれば、相乗効果を生み出すことができるし、そういう仕掛けを生み出すことが市の職員というふうな位置付けていくと、そんなに予算をかけなくても大きな仕掛けをすることができる。白鳥も、珍しい鳥として見にくるだけでは1回で終わりだが、高校や中学校の先生と組んで、阿賀野市の歴史、伝統、環境保護を学ぶコースを作ってそこで教育していく。そうすることで、観光と環境の教育プランを先生たちと組んでやることができる。子どもたちに関心を持たせるには教育が重要である。阿賀野市の歴史の意味を子どもたちに教えて行く必要がある。五頭の温泉はとても歴史が古い。人づくりのためには、市民自体が自分たちの郷土を理解して、こんなに素晴らしいところはないと、体系化して、たくさんのボランティアの傘下を組織していくことを市がコーディネートする。住民が自ら発信していくように仕掛けていくことが大切。

(委員) 新発田市で、県が中心でやっている「なりわいの匠」という事業の関係で表彰式があった。阿賀野市にも数十人いると思う。こういった人材を活用する部署はどこなのか。農林課か、商工観光課か、教育委員会か、これまでは認定されたままである。農作業体験や工芸品を作っていて認証された方々が市内にいるが、その人たちが活用されていない。そういう人たちを活用してこそ、グリーンツーリズムが活かせると思う。ただ認証されただけでは意味がないので、お客さんを紹介するなど、やりがいのある匠にしていかないとだめだと思う。また、胎内市の人たちが子どもの教育の話をしていた。胎内市では小学5年生を対象に市の予算で農家民泊をやっている。これにより、農家も張り合いをもって子どもを受け入れている。子ども自身も目を輝かせて参加しているという。阿賀野市も

取り組んだらどうか。これは各課の縦割りではできない。市役所で横断的な組織を立ち上げてぜひ実行してほしい。

(委員) 自分の場合も、特におもしろいことをやっているわけではないと思うが、県から認定させてくれと行って来ていたと思う。目的意識が見えないような気がする。

(委員) この事業を活用することで、阿賀野市の人材の掘り起こしができると思う。

(委員) うちのレストランにも、市内の中学生が一日体験にきた、トイレ掃除からはじまり、いろんなことを教えた。市役所の横のつながりも大事だと思う。先日、市民協働のセミナーにいった。市民のボランティアというのも増えてきていると思う。

(委員) われわれの組織も大きいのでどうしても部門間の情報の不通というのがある。その克服の仕方には二つある。一つは上が変われば変わるというもの。しかしそう簡単には変えられない。どうすればいいかというと、例えば、観光課からはこういう意見が出たので、全体を含めた組織づくりをやりたいと思うとする。ついでに、それに対する協力を、各課を越えたプロジェクトの提案をしたいのだがいかなものかということで観光課が主体となっていくこと。各課にこれまでの状況などをリストアップしてもらい、それを見える化してデザインし直すという方法ある。今現在できることは何かというふうを考えること。一つの課で抱え込まないでお互いに生かすこと。先ほどのなりわいの匠にしても、誰が提案して、誰がやっているのか、もともとの目的は何なのか、ということを含めていって、商工観光課が生かしてやろうということでプログラムを開発すればいい。

(委員) 何をやっても、目的意識がはっきりしなくてはだめ。プランも活字ではいくらでも書ける。実行力をどこに置くか、これまでいろんなプランを作ってきたこともあるが、同じことをやっている。中身をどうするのが大事。

(委員) 具体的な方法論を見つけ出すのがこの戦略会議だと思う。

(委員) この前も小学生から有機農業を勉強したいからと呼ばれた。親を目覚めさせるために子どもたちの発表をやっている。目的意識があるから続けていける。うららの森は、事業は農林課だが、観光は観光課など、そういう行政独特の役割分担がある。職員の異動なども影響があると思う。

(委員) グリーンツーリズムなど、最初民間に任せようとするが、とりあえずは行政で進めていかないと軌道にのらない。胎内市はそれを経験してきている。そこで市で予算を

つけて小学生の農家民泊をやった。今、阿賀野市で五頭自然学校がある。あの組織も存続のためにはある程度稼がないとやっていけないと思う。子どもの教育もこういう組織と協力して、稼いでもらい、大事にしていけないといけないと思う。支援がないとせつかくのいい組織がなくなってしまうかも知れないと思う。

(委員) 对学校となると教育委員会の分野になってしまう。結局つながっていくので、そこをどうリンクさせて束ねてくかが大事。

(委員) ものの資源と人の資源というのがある。いろんな団体で、組織を代表する人とキーマンが別の場合もあれば一緒の場合もある。資源調査の時に、例えば商品開発はどここの企業の誰がとか、温泉であれば、代表はいても、別の人が発信力があるので、キーマンであるとか、人間資源調査が必要。これをどうマッピングして、どういう形でネットワークして組み立てていくか。一つのイベントで3倍おいしくしていくためには、中心的なメンバーのリーダー、実行部隊、A B C D の階層別に組織をつくり上げていくと動かしやすくなる。そうすると、同時多発的に各地区で勝手にやるようになり、ネットワークができるので、いろんな人がいろんな提案をしても応えられる。阪神淡路大震災の時までは、窓口は全て行政だったが、何千人という被害者に対応できなかった。その時からマッチング方式が変わった。体育館などを解放して市役所が対応しても、中心になるのはNGOやNPO。彼らはまず、被災地のニーズを全部書き出す。ボランティア窓口はプロのNGOがさばく。肉体労働できる人、頭の回転が速い人など、市が振り分けるのではなく、NGOがやるので失敗しない。いろんな人が来るので市がやっているとパンクしてしまう。また、行政が受け入れるとお客さまのようになんでもやってあげてしまうが、NGOは食べ物も出さない、水も出さない、自分で用意するようにオリエンテーションで伝える。これまでの市のやり方を変え、コーディネーター側に持っていけないと、さばききれなくなってしまう。そのためにはいろんなデータやニーズを区分けして、それをマッチングさせるコーディネートの力を持たないと動かしきれない。市の審議会などを見ても、形だけというふうになりかねない。東北の震災直後から石巻の支援をやってきたが、NGOが全てコーディネートしていた。彼らは、社会福祉協議会や商工会などを自分たちの上に置く。窓口は社会福祉協議会や市になるが、実際の電話受け付けなどはボランティアでNGOがやる。そういう時代になっている。

(委員) 先ほどのなりわいの匠は、笹神地区に偏っている。阿賀野市全体をみれば、他の地区にもいると思う。

(事務局) なりわいの匠のパンフレットを見たが、認定を受けた人たちの連絡先が書いていない。新発田地域振興局が窓口となっているようだが、何か約束事でもあるのか。

(委員) 特にない。自分は、その資格審議委員になっているが、情報公開してもいいかどうかという項目があって、いいという場合もある。パンフレットには、個人情報の関係もあり、各担当課が把握していると思う。こちらが審議する材料の中には、あなたの情報を公開してもいいかどうかという項目があって、ほとんどの人はOKをとっている。やる気のある人たちがたくさんいるので、この人たちによって何ができるかということを考えていった方がいい。今後どうするかというようなことを話し合ってもいいのではないかな。

(委員) プランの基本理念は素晴らしいと思う。この理念に基づいた、アクションプランを考えていかないといけないと思う。

(事務局) 先回の会議と本日いただいた意見を参考に、プランの見直しに取り組んでいきたい。

(2) その他

(事務局) プラン推進・評価委員会の次期委員の選任について説明させていただく。現在の委員の皆さまには策定の時から関わっていただいた。皆さまは今回で終了ということにさせていただき、また、新たに各団体に照会をして、公募委員については、広報等でお知らせしたいと考えている。これまで長期間にわたり、貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。

(委員) うららの森のことで説明させていただきたい。五頭温泉郷旅館協同組合が指定管理の内定という形でもらっている。組合が指定を受けて、情報発信館、ゆうきふれあい即売所、体験学習館の施設の運営をやる。飲食と物販については今回「五頭たからもの屋」という別組織をつくり、運営していくことになる。今後、よろしくお願ひしたいと思う。

(事務局) 今後の商工観光課の体制として、農業、商工業に力を入れていくという市の考え方もあり、来年は観光係が増員となる。観光については今以上の成果を、挙げるよう頑張っていきたいと思っている。

4 閉 会

(事務局) 本日はありがとうございました。また、長い間、この戦略プランに関してご

尽力いただきまして誠にありがとうございました。プランのご提案の中に、数多い観光資源の中から、白鳥ということテーマに、もっと強く打ち出していくことが実現されなくてはならないという意見をいただいているところです。25年度がまもなく終了しますが、26年度は新しいプランの委員の皆さまと、これまでいただいた意見を十二分に生かした中で進めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力よろしく申し上げます。

問合せ

商工観光課

syokokanko@city.agano.niigata.jp